

# 令和4年度 北海道福祉のまちづくり賞 受賞事例集

ともに支え合う地域共生社会を目指して

北海道福祉のまちづくり表彰は、平成 10 年「北海道福祉のまちづくり条例」の施行の年にスタートし、今年度で 24 回目を迎えました。福祉的配慮に優れた事例を広く道民や関係事業者に紹介し、普及啓発を図ることを目的に実施しています。

公共的施設等の整備、障がいのある方や高齢者等の自立・社会参加の支援活動、障がいのある方や高齢者等の自立支援や介助者の負担軽減を図るための用具の製作を奨励するべく3部門構成で募集を行い、「福祉のまちづくり」を推進しています。



## 令和4年度の受賞について

公共的施設部門6件、活動部門5件、福祉用具部門1件、計12件の御応募をいただいた中から、学識経験者、福祉・建築・市民活動等の有識者で構成する懇談会の意見聴取を経て、公共的施設部門1件、活動部門2件、計3件を北海道福祉のまちづくり賞に選定しました。

(福祉用具部門は該当なし)

# 令和4年度(2022年度)北海道福祉のまちづくり表彰の概要

## 1 趣 旨

誰もが安心して暮らすことができるような「福祉のまちづくり」を進めるため、福祉的配慮に優れた公共的施設等の所有者・設計者、障がいのある方等を支援するための活動を行っている団体及び障がいのある方等の自立支援や介助者の負担軽減を図る福祉用具・製品等の製作者を表章します。

## 2 主 催

北海道

## 3 後 援

札幌市、北海道福祉のまちづくり推進連絡協議会

## 4 対 象

### ○ 公共的施設部門(福祉的配慮に優れた公共的施設等)

北海道福祉のまちづくり条例に規定する公共的施設等(※)で、道内に所在し、令和元年(2019年)7月1日から令和4年(2022年)6月30日までに完成したもの。

※ 多数の人が利用する病院やスーパーマーケット、サービス付き高齢者向け住宅等の建築物、公共交通機関(駅舎等の施設及び車両)、公園など

### ○ 活動部門(障がいのある方・高齢者等の自立・社会参加支援活動)

北海道福祉のまちづくり条例の趣旨に基づき、障がいのある方・高齢者等の自立と社会参加を支援するために、道内で取り組まれている活動。

### ○ 福祉用具部門(福祉用具、製品等)

道内において研究開発又は製作された、障がいのある方や高齢者等の自立支援や介助者の負担軽減を図るための用具(福祉用具、製品等)。

## 5 応募方法

所定の応募用紙を提出。他薦も可。

## 6 募集期間

令和4年(2022年)4月25日(月)～令和4年(2022年)6月24日(金)

## 7 北海道福祉のまちづくり懇談会構成員(五十音順)

佐藤 克之 北翔大学 名誉教授  
三瓶 徹 社会福祉法人 北海長正会 理事長  
白石 淳 北海道医療大学 看護福祉学部 教授  
牧野 准子 障がい当事者講師の会 すぱりんぐ 顧問  
山本 明恵 特定非営利活動法人 さっぽろ住まいのプラットフォーム 理事長

## 8 懇談会経過等

第1回懇談会	8月3日(水)
公共的施設部門現地確認	8月17日(水)、22日(月)
第2回懇談会	9月1日(木)
表彰式	10月21日(金)

## 9 お問い合わせ先

北海道保健福祉部福祉局地域福祉課企画調整係  
〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目  
TEL 011-231-4111(内線25-613) / FAX 011-232-4070

令和4年度 北海道福祉のまちづくり賞  
(公共的施設部門)

## 道の駅おとふけ なつぞらのふる里



【十勝の広大な敷地に作られたバリアフリー整備の整った道の駅】  
多様な利用者や環境への配慮が各所に見られ、今後の建築のあり方の参考にもなる施設。設計に当たり、地域の住民の意見や障がい当事者による実証も取り入れたこと、地域の防災備蓄機能を兼ねていることなども評価された。

また、地元の魅力を集めた情報発信基地となっている点、地域のコミュニティの場となっている点、道産材を多く使っている点も、北海道らしいお手本になると考えられる。



車いすでも利用しやすい広い通路



思いやり駐車場



24時間利用可能なトイレ

### 受賞者の声

「食と体験を基に人々が賑わい交流を行う拠点施設」をコンセプトに、誰もが利用しやすい施設づくりを目指して整備を進めてきました。今後も訪れる全ての人に十勝・音更町の魅力を発信し続けます。

所有者：音更町

設計者：株式会社アトリエブंक・株式会社創造設計舎

所在地：河東郡音更町なつぞら2番地

令和4年度 北海道福祉のまちづくり賞  
(活動部門)

## 特定非営利活動法人 ゆめみ～る



### 【地域住民の意見を取り入れながら継続する共生社会の居場所づくり】

住民主体の取組みとして平成20年から活動を開始、高齢者や障がいのある方、子どもなど地域住民の居場所づくりを継続し、実績を積み重ねてきた。

さまざまな活動において地域住民の意見を尊重している点、近年、活動内容を拡充したフードバンク事業において、社会問題である「食品ロスの削減」と「地域住民の交流」を結びつけた点も高く評価された。



フードドライブ・フードバンクの設置



子ども食堂「かえる食堂」の様子



地域住民が行う朝市

### 受賞者の声

15年間、地域のために続けてきた活動が、この度このような栄誉ある賞をいただくことができ、光栄に思います。これからも、きずなを紡ぎながら、「福祉のまちづくり」を目指して活動してまいります。

所在地：登別市幌別町5丁目18番地1

令和4年度 北海道福祉のまちづくり賞  
(活動部門)

## 名寄市立名寄東中学校 ボランティア部



### 【「誰かのためになる活動を！」というコンセプトの中学生ボランティア部活動】

中学校の生徒が自分たちで問題意識を持って考えながら活動しており、成長につながっている。平成19年から活動を開始し、継続した取り組みとして実績を積み重ねている点も評価された。

中学生のボランティアの機会は貴重であり、今後も、誰もが参加しやすく、社会貢献への意識を向上させる活動の継続が期待される。



緑化活動



デイサービス利用者との交流



車いす清掃活動

### 受賞者の声

私たちの活動にこのような賞をいただくことができ、とても嬉しく思います。この結果に恥じることがないように、いただいた講評をもとに継続してボランティア活動を行っていきたいと思います。

所在地：名寄市西2条北8丁目1番地3